

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道南富良野高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 079 - 0024

北海道空知郡南富良野町字幾寅 1 8 5 3 番地 2

E-mail minamihs@furano.ne.jp

Website <http://www.furano.ne.jp/minamihs>

幼児児童生徒数 男子 32 名 女子 23 名 合計 55 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「共生」を当面の活動テーマとして、ESD を「他者 (人間社会・自然環境) と自己とにおける関係の持続可能な発展・成長のための学習」と捉え、ESD の実践を通して「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる」力の育成を目標とした。

具体的には、自己理解と他者理解、自然環境との共生、地域社会との共生、外国文化との交流を柱に、①コミュニケーションに係わる学習、②自然環境に係わる学習、③地域共生に係わる活動、④外国文化に係わる活動を行った。

① コミュニケーションに係わる学習

第 1 学年においては、宿泊研修 (4 月) において構成的グループエンカウンターに加えて、年間 7 回にわけてピア・サポートとして段階的なコミュニケーショントレーニングを経験した。第 2 学年においては、インターンシップ (職業体験) において、適切な言動に関する練習を経て研修を受けた。第 3 学年においては、進路に関わり他者 (志望先) の深い理解にもとづく適切な自己表現 (自己アピール文・面接) に関して実践的に取り組んだ。

② 自然環境に係わる学習（全学年）

近隣の自然河川である空知川（ソラプチ川）及びユクトラシュベツ川、それらが流れ込むかなやま湖に生息するイトウの生態、その保護方法の1つとして周囲の森林環境保全及び河川管理の必要性に関する、小学校・中学校での学習及び調査体験を基盤として、さらに高校の科目「生物」「現代社会」「地理」「家庭総合」などにおける関連学習項目とも関係づけを行いながら、高校生の視点での学習及び調査体験に取り組んだ。これら自然環境のもとで我々の生活が成立していることの象徴としての、夏季湖上のカヌー部活動また冬季氷上のカーリング部活動及びそれぞれの体験授業に取り組んだ。

③ 地域共生に係わる活動

第1学年においては富良野地域の主農産物ジャガイモを用いるポテトチップス工場の見学・実習及び老人介護施設の訪問・介護体験、第2学年においては、インバウンドツーリズム需要による地域観光産業・地域農業関連産業・高齢化に伴う介護福祉関連事業へのインターンシップ、全学年において、それらを包括する活動としてのボランティア活動や地域PR活動、それらの本質的な諸問題を学習しその改善策を検討して参政権のあり方などを模擬体験する有権者教育に取り組んだ。いずれも交流・理解・貢献のフローを基調としている。

④ 外国文化に係わる活動

インバウンドツーリズム及びアウトバウンドツーリズムによる世界平和と経済の活性化の推進力として、中学生や高校生の視点での外国人や外国文化との交流・理解を深めるために、さまざまな国籍の外国語指導助手を招聘してのイングリッシュ・キャンプを中高連携活動として取り組んだほか、短期ながら国際交流派遣事業を本年度も実施した（平成11年度より実施、本年度は選抜の6名をオーストラリアへ派遣）。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ unesco-school.mext.go.jp・ accu.or.jp

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

現時点では、教育課程（指導計画）への位置付けは十分ではないと捉えている。

ユネスコ・スクールとは何か、E S Dとは何か、についての理解を深めるために、関連のパンフレットや他校の取組などの情報を回覧形式で周知し、個々自らの活動（教科指導・学校行事など）の何が、ユネスコ・スクールとの関わりを有し、E S Dに関連する要素に相当するのかを整理している段階にある。

今後は、さらに、それぞれの活動が持つ教科横断性や分掌横断性、あるいは教科分掌横断性をいっそう活性化した指導計画の立案やアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善及び各種の教育活動のリファインがいっそう求められると考える。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

②で記述したとおり、ユネスコ・スクールおよびE S Dに関する理解を深めている段階にある。現時点では、既存の学習活動（教科）や学校行事（分掌）の域で進行している。

ユネスコ・スクールあるいはE S Dのアンクルでの位置付けも深め、組織的な活動として相互の関係性を見出し。諸々の活動の教科横断性や分掌横断性にいっそう焦点を当てることやP D C Aサイクルに乗せることなどによって、体制や環境を整備し、継続性を確保していきたい。他校の実例の紹介をお願いしたいところである。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

現時点では、ユネスコ・スクールおよびE S Dに関わる評価項目が、各種の評価アンケートに設定しえていないため、内部・外部を問わず、直接の評価は得られていない。

ただし、既存の域にある学習活動（教科）・学校行事（分掌）などについての評価は得られており、おおむね良好と判断しうる状況である。間接的ではあるが、従来のパラダイムとしては成果があると考えている。

今後の課題は、ユネスコ・スクールおよびE S Dの概念や価値観の理解であり、それにもとづく評価の方法を整理して設定することと考えている。それには、他校の取組例を数多く入手する必要がある。

⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の既存の活動は、本校ホームページや各種の広報誌面で紹介したり、地元の中学校に専用掲示板を設定したりして、発信している。

しかし、ユネスコ・スクールとしてあるいはESDとしては発信していない状況である。

そこで、ユネスコ・スクールやESDが何を狙っているのか(その価値)を、校内だけでなく、校外一般に向けても、紹介しつつ、本校の活動成果を発信していく行程をとれば、初期段階の効果をえられるのではないかと考えている。

まず、何よりも、本校における活動をESDと関連づける作業が求められよう。他校の様子も知りたい。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

北海道外の各種の学校や団体の動きはメールリングリスト配信によるメールによって概要を知ることができる。また、北海道にESD活動支援センターが発足したことは承知している。

しかし、どのように関与できるのかが具体的にはわからない。加えて、近隣地区における協働・交流・ネットワーク形成が可能な団体の存在およびそのアプローチ方法を知りえない。また、北海道内の他のユネスコ・スクール認定校がどのような動きをしているのかに関する情報も取りえない状況にある。

まず、近隣のユネスコ・スクール認定校との接触を検討したい。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国際交流活動として短期に生徒を海外受入校へ派遣したり、道内他の管内の高校生徒会との偶発的に交流したりする実践はあるものの、⑥で言及したとおり、近隣のユネスコスクールとの協働・交流・ネットワーク形成にも関与できていない状況にある。

道内・道外、まして国外のユネスコ・スクールとの交流やネットワークを形成するだけの人的・物理的・経済的な余力が、本校現場にはないのが実情である。

当面は、簡便にして無償の取組例を模索したいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコ・スクール及びESDとしての活動を意識化して、今後この欄に記載するのに適当な活動内容へと改善していく。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 1 今、なぜユネスコ・スクールなのか、なぜESDなのか、何をユネスコ・スクールがめざしESDが推進しようとしているかについての理解を深める。
- 2 校内・校外のいずれにおいても、5に挙げる本校の学習や活動が、ユネスコ・スクール及びESDの活動でもあることについての認知度を上げる。
- 3 校内においては、それぞれの活動（教科指導・学校行事など）の何がESDに関わるものなのかを整理・意識しつつ、それぞれの活動が有する教科横断性や分掌横断性、あるいは教科分掌横断性をさらに活性化し、思考力・判断力・表現力を磨き、主体性・協働性・多様性を保持する、より計画的な活動の推進を模索する。
- 4 近隣のユネスコ・スクール認定校・ESD推進関連団体との接触を検討しネットワーク形成を模索する。